

# 令和8年度 第1回白井市在宅医療・ 介護連携、認知症対策推進協議会

2026.5.21(木)

# 在宅医療・介護連携、認知症 対策推進協議会とは

- ・ 在宅医療・介護連携、認知症対策の現状や課題、あるべき姿（目標）今後の方針について話しあう
- ・ 在宅医療・介護連携、認知症対策の取組みについて検討し、課題ワーキングの提案を協議決定する
- ・ 在宅医療・介護連携、認知症対策の取組みを評価する

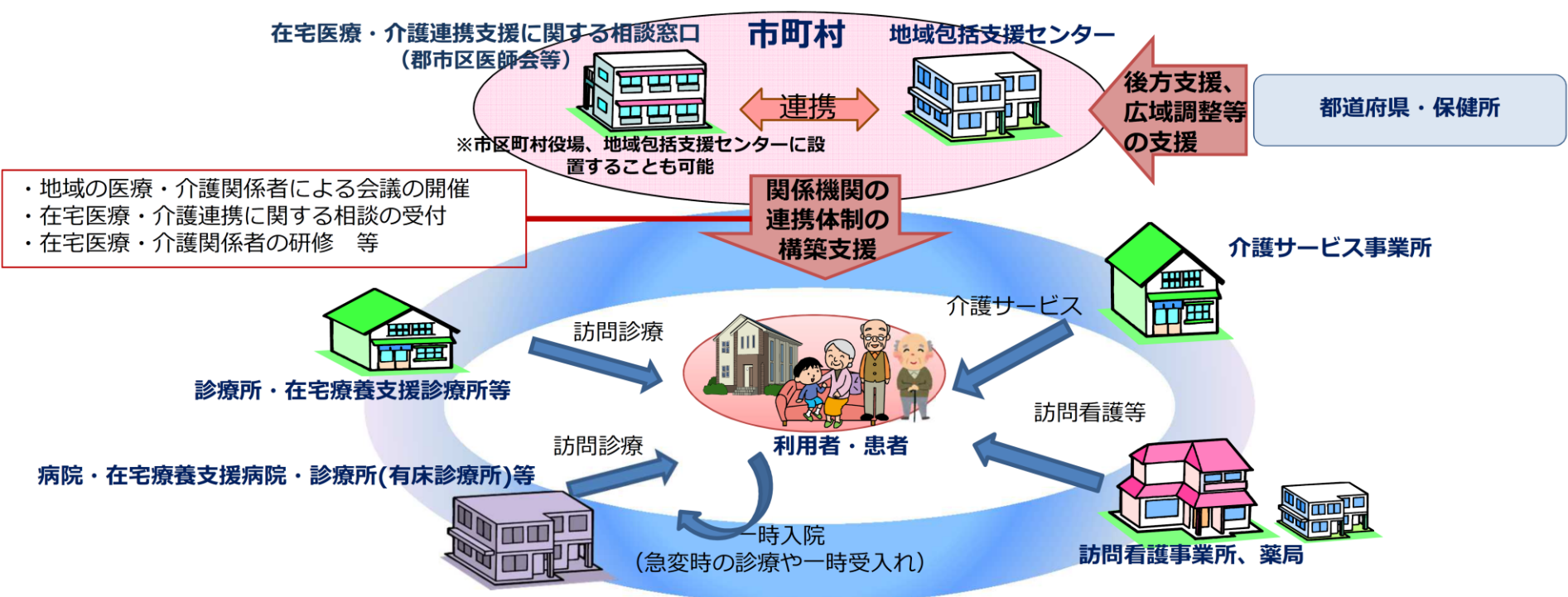
## <目次>

1. 令和7年度在宅医療・介護連携推進事業、認知症総合支援事業の実績報告
2. 令和7年度認知症初期集中支援チーム実績報告
3. 令和8年度在宅医療・介護連携推進事業、認知症総合支援事業の実施計画
4. 意見交換  
「本人ミーティングの感想と活用方法・内容について」

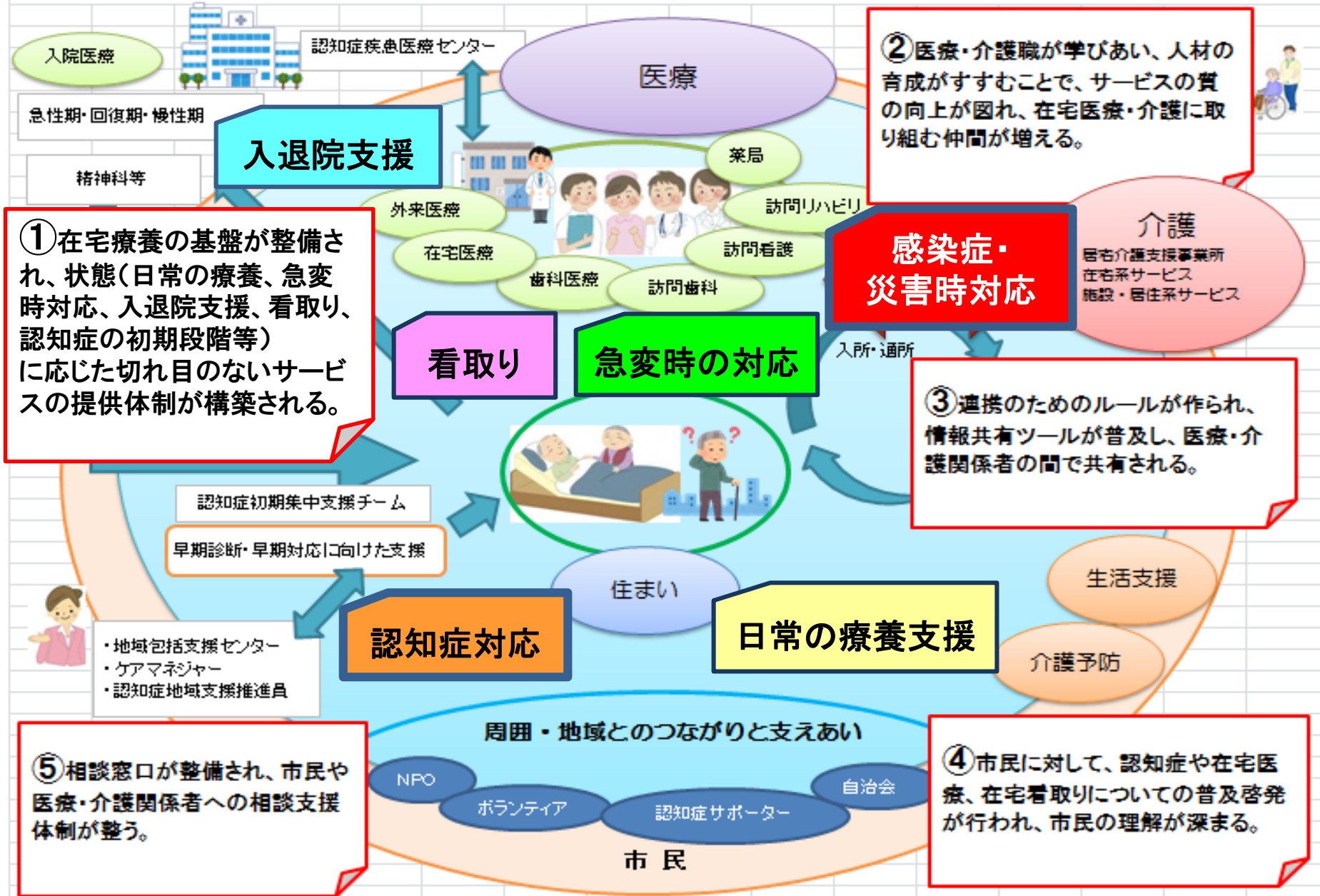
# 1. 令和7年度在宅医療・介護連携 推進事業、認知症総合支援事業の 実績報告

# 在宅医療・介護連携の推進

- 医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域における医療・介護の関係機関（※）が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護を提供することが重要。  
 （※）在宅療養を支える関係機関の例
  - ・診療所・在宅療養支援診療所・歯科診療所等（定期的な訪問診療等の実施）
  - ・病院・在宅療養支援病院・診療所（有床診療所）等（急変時の診療・一時的な入院の受入れの実施）
  - ・訪問看護事業所、薬局（医療機関と連携し、服薬管理や点滴・褥瘡処置等の医療処置、看取りケアの実施等）
  - ・介護サービス事業所（入浴、排せつ、食事等の介護の実施）
- このため、関係機関が連携し、多職種協働により在宅医療・介護を一体的に提供できる体制を構築するため、都道府県・保健所の支援の下、市区町村が中心となって、地域の医師会等と緊密に連携しながら、地域の関係機関の連携体制の構築を推進する。



住み慣れた地域で、最期まで暮らし続けることができるためには・・・



## 白井市の目指す姿 (5つの柱)

# 令和7年度 検討の体制

在宅医療・介護連携、  
認知症対策推進協議会

介護施設での  
救急時連携・  
看取りWG

認知症  
支援体制WG

# 本人ミーティングの開催 (デイサービス事業所で実施)

**日程：**令和8年3月27日（金）  
デイサービスたんぽぽ1号館・2号館

**対象：**デイサービスを利用している当事者・高齢者  
計16人  
(ほか、デイサービス職員)

**方法：**3つのテーマごとに意見をいただき、付箋に記入し、模造紙に貼っていく。

## 2. 令和7年度認知症初期集中 支援于一人実績報告

資料 2

# 3. 令和8年度在宅医療・介護連携 推進事業、認知症総合支援事業計画

資料 3

# 令和8年度 検討の体制

在宅医療・介護連携、  
認知症対策推進協議会

病院長会議

(在宅医療  
後方支援体制)

身寄りのない高齢者の支援WG

随時

ICT普及啓発

# 令和8年度の事業実施方針

## 日常の療養支援

在宅療養への市民理解促進、訪問診療・訪問看護リストの更新・活用、在宅医療・介護の連携状況の分析

## 入退院支援

入退院時連携ルールBook活用の周知、ICT（多職種連携情報共有システム）の活用促進

## 急変時の対応

在宅医療後方支援制度の普及、救急医療情報キットの普及、医療・介護・消防（救急）の意見交換会

## 看取り

終活支援ノートやACPについて市民への普及啓発、介護関係者のACPへの理解醸成のための講座の開催

## 認知症対応

認知症パートナーの養成講座、本人ミーティングの開催、認知症みまもり訓練の実施、認知症フォーラムの開催

## 感染症・災害時対応

災害時の在宅療養者への対応検討（関係課、消防(救急)、介護事業所等）、個別避難計画の策定

## 4. 意見交換

「本人ミーティングへの感想と  
活用方法・内容について」

# 本人ミーティングとは

物忘れが心配な者同士が、自らの体験や希望、必要としていることを語り合い、自分たちのこれからのより良い暮らし、暮らしやすい地域のあり方を一緒に話し合う場。

★目的: 認知症の人の視点を重視した優しい地域づくりを具体的に進めていくこと

- ①本人同士が出会い、つながる
- ②自らの体験・希望、必要としていることを率直に話す

一人ひとりが生きがいを持ってよりよく暮らしていくきっかけとする



本人が地域づくりに参画する

- ③行政や関係者が本人の声を聴く
- ④本人の体験や思いの理解を深める

★自分らしく暮らし続けるために本人が必要としていることを把握し、発信・共有  
★本人視点に立ってよりよい施策や支援を一緒に進める

## ※参考資料

# 市の本人ミーティングの取組

- R3年度より開始、当初は市内3か所で、本人、家族、地域関係者、専門職が集まり実施
  - 「本人座談会」DVDの視聴、DVD視聴の感想より話を展開し思いなど共有した
- 本人: 意欲がわからない、情けない、不安 といった気持ちの表出、工夫点の共有
- 家族: 本人にやってもらおうようにしている等といった工夫、人と交流してもらいたいという思いの表出

# ※参考資料

## 市の本人ミーティングの取組

- ・R4年度は実施なし。当事者、家族含めた情報交換、相談できる場として「お楽しみ処（認知症カフェ）が開始

### お 楽 し み 処

認知症に理解がある  
話を聴いてもらえる  
安心感がある

地域の人と専門職の連携  
(お互いに相談できる関係)  
がある

## ※参考資料

# 市の本人ミーティングの取組

- R5、6年度は、2か所で実施している認知症カフェ「お楽しみ処」において実施
- 自分でやってみたいこと、地域に身近にあったら良いと思うものについて話した
  - 自分の足で歩いて色々なところに行ってみたい、料理をしたい、皆で食事を食べたい、近くのスーパーでも良いので温泉に入りたい
  - R5,6年度ともお楽しみ処メンバーでお弁当を食べた

# 共生社会を実現するための認知症基本法

令和6年1月1日に施行

認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことが出来るよう、認知症施策を総合的かつ計画的に推進

認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会(=共生社会)の実現を推進

## 共生社会を ともにつくる

認知症の有無に関わらず、一人一人が個性と能力を発揮し、互いに尊重し支え合いながら共生する社会

## 認知症の本人の 声を聞く

全ての認知症の人が、基本的人権を持つ個人として自分の意思で生活できるようにすること

## 「新しい認知症観」 に立つ

- ✖ 認知症になると何もできなくなる
- 認知症になっても希望を持ち自分らしく暮らす